

県営処分場エコグリーンとちぎ安全推進協議会

第5回会議開催結果概要

1 開催年月日 令和8（2026）年7月21日（火）15時00分～16時15分

2 場 所 エコグリーンとちぎ管理棟2階大会議室

3 議 事

- (1)エコグリーンとちぎの運営等について
- (2)北沢不法投棄物の撤去完了について
- (3)エコグリーンとちぎの情報発信について
- (4)その他

4 出 席 者

安全推進協議会委員

- | | |
|--|--------|
| (1) 那珂川町行政区長連絡協議会会長 | 菊池 眞一 |
| (2) 那珂川町和見行政区長 | 平塚 睦男 |
| (3) 那珂川町小砂行政区長 | 藤田 眞一 |
| (4) 那珂川町議会教育民生常任委員会委員長 | 川上 要一 |
| (5) 一般財団法人日本環境衛生センター顧問 | 藤吉 秀昭 |
| (6) 国立研究開発法人国立環境研究所 福島地域協働研究拠点
廃棄物・資源循環研究室長 | 遠藤 和人 |
| (7) 栃木県環境森林部参事 | 大橋 禎恵 |
| (8) 那珂川町生活環境課長 | 久保寺 康之 |

事務局（栃木県）

- | | |
|--------------|-------|
| 資源循環推進課長 | 松木 太郎 |
| 県営処分場管理担当 主幹 | 野澤 剛 |
| 主査 | 角田 武裕 |
| 主査 | 黒川 泰延 |
| 技師 | 村田 智哉 |

事務局（SPC）

- | | |
|-----------------------|--------|
| 株式会社クリーンテックとちぎ代表取締役 | 安藤 由紀男 |
| 株式会社クリーンテックとちぎ取締役 | 吉崎 幹人 |
| 株式会社クリーンテックとちぎ処分場責任者 | 宮田 昭宏 |
| 株式会社クリーンテックとちぎ顧問 | 河道 信二 |
| 株式会社クリーンテック営業部部長 | 鈴木 和昭 |
| 株式会社クリーンテック経営企画室室長 | 澤田 義麿 |
| 株式会社熊谷組 エコグリーンとちぎ作業所長 | 柳楽 和宏 |
| 株式会社熊谷組 首都圏支店 工事管理部部長 | 花光 洋 |

5 結 果

- ・委員互選により遠藤委員を会長に選任した。
- ・資料に従い事務局から説明した後、以下の通り意見交換を行った。

委員からの御質問・御意見等	事務局（県及びSPC）及び町からの回答等
（１）エコグリーンとちぎの運営等について （資料１） ・遮水シートを損傷させてしまった際の重機の操縦方法は、これを機に見直しを行ったのか。 ・手作業で行う範囲を設けるようマニュアル化した方が良いのではないか。 ・事故につながらないようヒヤリハット報告を現場から行えば潜在的なリスクに対して対応できるようになる。そのような報告を行っていて、解析をしているのであれば、次回からその内容を報告してもらえるといい。 ・財務モニタリングについて、監査法人が確認したことがわかるよう資料に記載したり、又は口頭説明があるといい。 ・埋立前領域の遮水シート（特に法面）を損傷させるという事例はよくある話だと思う。重機の動きが原因のことが多いので手作業のマニュアル化やヒヤリハット対策を対応していただきたい。 ・修復が完全に行われていることは理解しているが、どのような修復をしたかが重要なので、写真等を使って協議会の中で詳細に説明してもらった方が良くと思う。	（SPC） ・重機の作業半径が限界に近いところでの作業が原因であったため、余裕を持った作業半径となるよう作業手順書を見直した。 （SPC） ・参考にさせていただく。 （SPC） ・ヒヤリハットの報告について実施しており、記録し、保管している。 ・報告について検討する。 （県） ・監査法人の監査結果とSPCの自己診断の結果が県に提出され、県において確認、モニタリングを実施した。 ・資料では説明が足りなかったため、次回からよりわかりやすい説明を心がける。

- ・埋立が進んで問題が起きたときに、この損傷が原因ではないと言い切れるように資料を整えておいた方が良い。
- ・溶存酸素未達の報告については、その河川の特性についても把握しておいてもらいたい。

（２）北沢不法投棄物の撤去完了について

（資料２）

- ・追加回答において、水質調査は２年間実施するとのことだが、資料２の２ページの観測井戸で実施されるのか。

（３）エコグリーンとちぎの情報発信について

（資料３）

- ・環境学習体験イベントは、施設を中心に町内各地を巡ってもらい、那珂川町に来て処分場見学だけではなく、那珂川町の観光施設や食事を体験していただける政策をしていただいた。那珂川町をより知ってもらえるよう今後も継続していただきたい。
- ・施設見学に多くの方が来ているとのことだが、見学者は町内を周遊したのか。

- ・環境学習体験イベントについて、充実していると思うが、地域の名産品を入れればと思う。

（４）その他

- ・遮水シート損傷について、修復をしたとのことだが、修復前と同様の機能が保持されているのか。

（県）

- ・資料２の２ページの観測井戸も含まれるが、小口川上流等でも実施する。

（県）

- ・施設見学で終わるのではなく、町の魅力を知ってもらえるようパンフレットやデジタルサイネージで情報を発信している。環境学習だけではなく、町の魅力も情報発信していきたい。
- ・県外から施設見学の申込があった際には町の観光情報のパンフレットを事前に送付し、お食事処や季節の見所を案内している。

（町）

- ・イベント開催に当たって、町の特産品をノベルティで配るなどの話があったが、行程的なところで実現できなかった。回数を重ねていく中で町の特産品を披露する機会を持てるように町も積極的に関わっていきたい。

・処分場があることによって、町にとってどれほど財政的な支援があるのか。 ・この処分場に町のゴミは入れられないのか。 ・搬入車両に町のPRステッカーを貼れないか。この自慢できる施設をPRすることで町のPRに繋がると思う。	(SPC) ・漏水検知システムにおいて1日1回、測定を行っている。修復した箇所では漏水は検知されていない。補修もされ、性能も維持されていると認識している。 (県) ・財政的な支援については、町の事業を支援するため県からの交付金制度を設けている。 ・廃棄物処理法上、一般廃棄物については、町で処理することになるため、当処分場では扱うことができない。 ・搬入車両のステッカーについては、県だけで判断できるものではないので検討できるかも含め考えさせてもらう。 (町) ・地域振興については、町民からの要望を元に事業計画を策定し、その中のいくつかについては、支援をいただいている。交付を受けた支援金の中で最大限効果が出るように事業を行っていく。
---	---